

2015年西洋中世学会会員年間業績リスト（2015年1月～12月）

* 広い意味での西洋中世（古代末期～近世、イスラーム、ユダヤ、中東アジアなども含む）に関する刊行された業績を、自己申告していただいたものです（氏名=五十音順）。

赤江雄一（アカエ ユウイチ）

A Mendicant Sermon Collection from Composition to Reception: The Novum opus dominicale of John Waldeby, OESA, SERMO: Studies on Patristic, Medieval, and Reformation Sermons and Preaching, 7 (Turnhout: Brepols)

「西洋中世学会第7回シンポジウム報告：托鉢修道会中所後期の信仰世界」『西洋中世研究』7、205-207頁。

足立広明（アダチ ヒロアキ）

Hypatia: A 'Pagan' Holy Woman in Late Antiquity. Minamikawa T., ed., *New Approaches to the Later Roman Empire*, pp.123-135.

[翻訳]ジリアン・クラーク『古代末期のローマ帝国—多文化の織りなす世界』（白水社）。

阿部俊大（アベ トシヒロ）

[論文]“The ecclesiastical policy of the counts of Barcelona in a conquered region: the relationship between the counts and the archbishopric of Terragona in the 12th and 13th centuries”, F. Sabaté (ed.) *Life and Religion in the Middle Ages*, Cambridge, pp. 67-102.

[翻訳]ジュゼップ・エルナンド「西欧中世における反イスラーム論：極めて困難な相互理解——ラモン・マルティの事例を中心に（中）」『言語文化論究』（九州大学大学院言語文化研究院）34、89-102頁。

[翻訳]ジュゼップ・エルナンド「西欧中世における反イスラーム論：極めて困難な相互理解——ラモン・マルティの事例を中心に（下）」『言語文化論究』（九州大学大学院言語文化研究院）35、123-129頁。

阿部善彦（アベ ヨシヒコ）

「魂における神の誕生」のダイナミズム—エックハルトの「ドイツ語説教—」における wider ingeben を手がかりに—『日本カトリック神学会誌』26、85-111頁。

「偽エックハルト文書『姉妹カトライ』における女性の霊性について」『宗教研究』別冊 88、202-203頁。

池上俊一（イケガミ シュンイチ）

『カエサルくんと本のおはなし』（福音館書店）。

『増補 魔女と聖女——中近世ヨーロッパの光と影』（筑摩書房）。

『森と山と川でたどるドイツ史』（岩波書店）。

「ヨーロッパ中世における驚異」「ヨーロッパ中世の驚異譚における空間(トポス)と時間(クロノス)」山中由里子編『〈驚異〉の文化史——中東とヨーロッパを中心に』（名古屋大学出版会）、26-41、202-219頁。

「歴史学の作法 1——すべてを歴史の相の下に」『UP』（東京大学出版会）507、1-6頁。

「歴史学の作法 2——心性史再考」『UP』（東京大学出版会）509、22-28頁。

「歴史学の作法 3——史料批判は終わらない」『UP』（東京大学出版会）511、52-61頁。

「歴史学の作法 4—拡散する数量史」『UP』（東京大学出版会）513、22-29 頁.

「歴史学の作法 5—歴史の道筋」『UP』（東京大学出版会）515、14-21 頁.

「歴史学の作法 6—いかに歴史を叙述するべきか」『UP』（東京大学出版会）517、12-19 頁.

「歴史の中のイタリア料理」『Excellent Italy Bella Italia』（株式会社シルバーストーン JP）4、16-21 頁.

池田真弓（イケダ マユミ）

“Chapter 5: The Fust and Schöffer Office and the Printing of the Two-Colour Initials in the 1457 Mainz Psalter,” Ad Stijnman and Elizabeth Savage, ed. *Printing Colour 1400-1700: History, Techniques, Functions and Receptions* (Leiden: Brill), pp. 65-75.

「ペーター・シェーファー出版『ラテン語本草』と『健康の庭』—15 世紀印刷本草の挿絵分析—」『鹿島美術研究』32（別冊）、76-87 頁.

石田隆太（イシダ リュウタ）

「トマス・アクィナスにおける人間の魂の個体化——魂と身体の関係をめぐる——」『中世思想研究』57、55-68 頁.

「トマス・アクィナスと可知的質料——個体化の原理をめぐる——」『中世哲学研究』34、22-38 頁.
[翻訳]「トマス・アクィナス『定期討論集 霊的被造物について』第三項 試訳」『宗教学・比較思想学論集』（筑波大学宗教学・比較思想学研究会）16、57-91 頁.

伊藤亜紀（イトウ アキ）

「勇者は、着飾る——マンタ城サーラ・バロナーレ《九人の英雄と九人の女傑》」『地中海学研究』38、3-24 頁.

「表紙説明 地中海世界の〈道具〉9: 櫛」『地中海学会月報』383、1-2 頁.

伊藤進（イトウ ススム）

[共編訳]『フランス・ルネサンス文学集 1 学問と信仰と』（宮下志朗、平野隆文との共編訳、白水社）.

井野崎千代子（イノサキ チヨコ）

[新刊紹介] Helmut Gneuss & Michael Lapidge (eds.). *Anglo-Saxon Manuscripts: A Bibliographical Handlist of Manuscripts and Manuscript Fragments Written or Owned in England up to 1100*. 『西洋中世研究』7、175-176 頁.

今井澄子（イマイ スミコ）

『聖母子への祈り—初期フランドル絵画の祈禱者像—』（国書刊行会）.

「《エステルンのタペストリー》の政治的役割—ブルゴーニュ公シャルル・ル・テメレールの結婚式（1468 年）におけるイメージ戦略をめぐる—」『大阪大谷大学 歴史文化研究』15、1-27 頁.

「救いへといたる道、あるいは宮廷的なイメージの戯れ—《虚栄と救済の多翼画》に見るメモリンクの創意」尾崎彰宏責任編集『北方近世美術叢書 I ネーデルラント美術の魅力—ヤン・ファン・エイクからフェルメールへ』（ありな書房）、49-88、282-287 頁.

[書評]「図説 ベルギー 美術と歴史の旅」『新潟日報』4 月 19 日.

[新刊紹介] Lynn F. JACOBS, *Opening Doors: The Early Netherlandish Triptych Reinterpreted*, University Park, Pa. Pennsylvania State University Press, 2012 『西洋中世研究』7、181 頁.

伊能哲大（イヨク アキヒロ）

[解説]フランシスコ会日本管区訳・監修『アシジの聖フランシスコ伝記資料集』（教文館）、793-809頁。
「1239年5月15日のクーデター——小さき兄弟会の奪権闘争における教皇の役割——」『日本カトリック神学会誌』26、141-157頁。

内川勇太（ウチカワ ユウタ）

[共訳]「第四ラテラノ公会議（1215年）決議文翻訳」（藤崎衛監修）『クリオ』29、87-130頁。
[共訳]ウェンディ・デイヴィス『オックスフォードブリテン諸島の歴史 3 ヴァイキングからノルマン人へ』（慶応義塾大学出版会）。
[新刊紹介]Levi Roach, *Kingship and Consent in Anglo-Saxon England, 871-978: Assemblies and the State in the Early Middle Ages*. 『西洋中世研究』7、194頁。

内田日出海（ウチダ ヒデミ）

『国家の周縁——特権、ネットワーク、共生の比較社会史』（田村愛理、川名隆史との共編、刀水書房）。

梅村尚幸（ウメムラ ナオユキ）

[新刊紹介]“G. Ulrich GROSSMANN, *Die Welt der Burgen: Geschichte, Architektur, Kultur*, München, C. H. Beck, 2013.” 『西洋中世研究』7、177-178頁。

大黒俊二（オオグロ シュンジ）

「女性が書くとき——限界リテラシーからみるイタリア・ルネサンス」『世界史の研究』684、0-15頁。
[書評]「大戸安弘・八鍬友広編『識字と学びの社会史』思文閣出版、2014年」『社会言語学』XV、195-201頁。

大貫俊夫（オオヌキ トシオ）

「盛期中世におけるシトー会修道院の小教区=農村共同体形成への関与に関する研究」『西洋史研究』新輯44、1-23頁。
[書評]「ジャイルズ・コンスタブル（高山博監訳）『12世紀宗教改革：修道制の刷新と西洋中世社会』『史苑』75(2)、426-433頁。
[書評]「杉崎泰一郎著『修道院の歴史—聖アントニオスからイエズス会まで—』『上智史学』60、113-120頁。

大沼由布（オオヌマ ユフ）

「ヨーロッパ中世の東方旅行記と驚異」、「東方の驚異—ヨーロッパにおける巨大蟻の記述の変遷」山中由里子編『<驚異>の文化史—中東とヨーロッパを中心に』（名古屋大学出版会）、95-112、220-236頁。
“*Wonders of the East and Natural History.*” *Poetica: An International Journal of Linguistic-Literary Studies* 83, pp. 19-36.

大野松彦（オオノ マツヒコ）

[新刊紹介] Franz POHLE, Peter VAN DEN BRINK & Salvenaz AYOOGI (eds.), *Karl der Grosse / Charlemagne: Orte der Macht / Karls Kunst*, 3. vols, Dresden 2014, 『西洋中世研究』7、193頁。

大原志麻（オオハラ シマ）

『ヌマンシア』におけるセルバンテスのアダプテーション」『翻訳の文化／文化の翻訳』別冊（静岡大

学人文社会科学部) 10、141-154 頁.

「「ヌマンシア」の形成と多義性について」『翻訳の文化／文化の翻訳』(静岡大学人文社会科学部) 10、37-64 頁.

岡北一孝 (オカキタ イッコウ)

「マンテーニャによるオヴェターリ礼拝堂壁画の中の建築」、『Arts & Media』(大阪大学大学院文学研究科文化動態論専攻アート・メディア論研究室) 5, 30-51 頁.

尾形希和子 (オガタ キワコ)

「西洋中世における象の寓意と象徴」『沖縄県立芸術大学紀要』23、1-20 頁.

岡本広毅 (オカモト ヒロキ)

“Gawain’s Treachery on the Bed: Trojan Ancestry and Territory in *Sir Gawain and the Green Knight*.” *Studies in English Literature* 56, 19-37 頁.

小澤実 (オザワ ミノル)

Preprint of International Workshop “Medieval Papacy in its Network: Europe inside and outside”, Tokyo: Rikkyo University.

「交渉するヴァイキング商人：10世紀におけるビザンツ帝国とルーシの交易協定の検討から」 斯波照男・玉木俊明編『北海・バルト海の商業世界』(悠書館)、113-148 頁

Why did Swein Raise a Rune Stone in Memory of Skarde? A Contribution to the Reconstruction of the Jelling Dynasty’s Commemoration Strategy. Jean-Loup Lemaitre (ed.), *Entre texte et histoire. Mélanges en l’honneur de Shoichi Sato*, Paris: De Boccard, pp.265-273.

The papal see as a circuit: papal governance in the 13th century, Minoru Ozawa (ed.), *Preprint of International Workshop “Medieval Papacy in its Network: Europe inside and outside”,* Tokyo: Rikkyo University, pp.50-53.

「城と教会のある風景」『工芸青花』2、18-20 頁.

「ロマネスク時代の巡礼」『工芸青花』4、52-54 頁.

「ゲオルク・シュトラック (菊地重仁訳) 「教会「改革」から宗教「改革」へ：盛期・後期中世における教皇権」：解説」『史苑』75 (2)、413-415 頁.

[共訳]『オックスフォードブリテン諸島の歴史3 ヴァイキングからノルマン人へ』(慶應義塾大学出版会).

小野賢一 (オノ ケンイチ)

「中世盛期 (11-13 世紀初頭) の南フランスに於ける司教座聖堂参事会の律修化と教皇権—類型学的アプローチの重要性—」『青山史学』33、43-47 頁.

「回顧と展望 ヨーロッパ (中世 一般)」『史学雑誌』124(5)、312-313 頁.

「回顧と展望 ヨーロッパ (中世 西欧・南欧)」『史学雑誌』124(5)、313-317 頁.

金沢百枝 (カナザワ モモエ)

『ロマネスク美術革命』新潮選書.

「ロマネスク床モザイクに見る驚異 オトラント大聖堂の分類不能な怪物たち」『〈驚異〉の文化史 中東とヨーロッパを中心に』山中由里子編、名古屋大学出版会、184-200 頁.

加藤玄 (カトウ マコト)

「国王と諸侯—14世紀ガスコニュに生きたガストン・フェビュスの生涯から—」近藤和彦編『ヨーロッパ史講義』(山川出版社)、55-73頁。

加藤磨珠枝 (カトウ マスエ)

『ヨーロッパ中世美術論集(1) 教皇庁と美術』(編・著、竹林舎)。

「オスティア・アンティカから考えるミトラス教美術—7つの門のミトラエウム(Reg. IV. Ins. V, 13)を中心に」豊田浩志編『古代イタリア半島港湾都市の地政学的研究』(科研費研究成果報告書)、202-222頁。

[新刊紹介]Rosamond Mckitterick et al.(eds.), *Old Saint Peter's, Rome* [British School at Rome Studies]『西洋中世研究』7、189頁。

加納修 (カノウ オサム)

Entre texte et histoire. Études d'histoire médiévale offertes au professeur Shoichi Sato, volume préparé par Osamu Kano et Jean-Loup Lemaître avec la collaboration de Takashi Adachi, Yoshiya Nishimura et Michel Sot, Paris, Diffusion de Boccard.

Sur la "rationalité" de la preuve écrite à l'époque mérovingienne, in *Entre texte et histoire*, pp. 183-194.

「フランク王国における「ローマ法」認識に関する一考察」『西洋中世研究』7、42-55頁。

河野雄一 (カワノ ユウイチ)

「エラスムスの思想世界——可謬性・規律・改善可能性——」慶應義塾大学大学院法学研究科、博士(法学)学位請求論文。

「エラスムス政治思想における「医術」」『法學政治學論究』(慶應義塾大学法学研究科)104、1-32頁

「エラスムスにおける善悪・運命・自由意志」『新プラトン主義研究』14、73-82頁。

「エラスムス『リングア』における言語と統治——功罪と規律——」『中世思想研究』57、69-82頁。

神崎忠昭 (カンザキ タダアキ)

『ヨーロッパの中世』(慶應義塾大学出版会)。

「2つのローマー「旅の書」にアイデンティティの上書き利用を読む」松田隆美編『旅の書物／旅する書物』(慶應義塾大学出版会)、76-104頁。

[新刊紹介]Martin Aurell, *Des Chrétiens contre les croisades: XII^e-XIII^e siècles*, Paris, Fayard, 2013
『西洋中世研究』7、161-162頁。

Spencer E. Young, *Scholarly Community at the Early University of Paris: Theologians, Education and Society, 1215-1248*, Cambridge, Cambridge University Press, 2014『西洋中世研究』7、203-204頁。

菊地重仁 (キクチ シゲト)

「初期中世ヨーロッパ政治史への『文書形式学的』アプローチ 定型表現の形成・変遷とその意義について」『史苑』75-2、175-202頁。

[翻訳]ゲオルク・シュトラック「教会「改革」から宗教「改革」へ 盛期・後期中世における教皇権」『史苑』75-2、387-412頁。

[書評エッセイ]「マルク・ブロック／井上泰男・渡邊昌美訳『王の奇跡-王権の超自然的性格に関する研

究/特にフランスとイギリスの場合』歴史学研究会編『歴史学と、出会う：41人の読書経験から』（青木書店）、190-195頁。

久木田直江（クキタ ナオエ）

Naoë Kukita Yoshikawa (ed.), *Medicine, Religion and Gender in Medieval Culture* (Cambridge: D. S. Brewer, 2015).

Naoë Kukita Yoshikawa, 'Heavenly Vision and Psychosomatic Healing: Medical Discourse in Mechtild of Hackeborn's the *Booke of Gostlye Grace*', in *Medicine, Religion and Gender in Medieval Culture*, ed. Naoë Kukita Yoshikawa (Cambridge: D. S. Brewer, 2015), pp. 67-84.

草生久嗣（クサブ ヒサツグ）

Ecumenical Orthodoxy and Heterodoxy in Post Late Antiquity, T. Minamikawa ed., *New Approaches to the Later Roman Empire*, Kyoto University, pp. 163-177.

『ビザンツ』帝国の『ローマ』人：アイデンティティの射程』『西洋中世研究』7、5-24頁。

楠戸一彦（クスト カズヒコ）

「16世紀ドイツにおける剣士団体『羽剣士団』の成立事情－『マルクス兄弟団』と『自由剣士』の対立－」『体育史研究』32、41-50頁。

久米順子（クメ ジュンコ）

Escribanos e iluminadores de la frontera cristiana hispana entre los siglos X y XI: la costumbre del retrato, en Martín F. Ríos (coord.), *El mundo de los conquistadores*, Ciudad de México / Madrid, pp. 839-859.

Obras de arte en torno a la *translatio s. Isidori legionem anno 1063*, en Gerardo Rodríguez y Gisela Coronado Schwindt (compiladores), *Formas de abordaje del pasado medieval*, Mar del Plata, pp. 40-75.

Arte cristiano en el Toledo conquistado, en Gerardo Rodríguez y Gisela Coronado Schwindt (compiladores), *Formas de abordaje del pasado medieval*, Mar del Plata, pp. 76-96.

「スペイン料理 - 海と大地と太陽の恵みを食べる」沼野恭子編『世界を食べよう』（東京外国語大学出版会）、176-181頁。

[共訳]『プラド美術館展—スペイン宮廷 美への情熱』（展覧会カタログ、三菱一号館美術館、読売新聞社）。

黒川正剛（クロカワ マサタケ）

「ヨーロッパ中世の奇譚集」山中由里子編『＜驚異＞の文化史—中東とヨーロッパを中心に』（名古屋大学出版会）、113-127頁。

「ヨーロッパ近世の驚異—怪物と魔女」山中由里子編『＜驚異＞の文化史—中東とヨーロッパを中心に』（名古屋大学出版会）、348-362頁。

桑原夏子（クワバラ ナツコ）

「フォッサ、サンタ・マリア・アド・クリプタス聖堂：北壁の聖母晩年伝図像についての基礎研究」『芸術学』（慶應義塾大学三田芸術学会）18、26-37頁。

Reconsidering the Problem of the Central Predella of the Baradori Altarpiece by Filippo Lippi: Why was the subject "Annunciation of the Death of the Virgin and Arrival of the Apostles" chosen? *Aesthetics*, 19, pp.39-50.

児嶋由枝 (コジマ ヨシエ)

「中世後期における教皇庁の墓碑彫刻——アルノルフォ・ディ・カンビオの革新——」越宏一監修『教皇庁と美術』(竹林舎)、294-414 頁.

「日本二十六聖人記念館の《雪のサンタ・マリア》とシチリアの聖母像：キリシタン美術とトレント公会議後のイタリアにおける聖像崇敬」『イタリア学会誌』65、167-188 頁.

小沼明生 (コヌマ アキオ)

G・フーケー、G・ツァイリング著、小沼明生訳『災害と復興の中世史』(八坂書房).

小林繁子 (コバヤシ シゲコ)

『近世ドイツの魔女裁判—民衆世界と支配権力』(ミネルヴァ書房).

「通告としての請願—近世マインツ選帝侯領の魔女裁判事例から」『ドイツ研究』49、78-90 頁.

「魔女裁判における財産没収と請願—ポリツァイの視点から」『西洋史学』254、1-18 頁.

[新刊紹介]「黒川正剛『魔女狩り—西欧の三つの近代化—』『史学雑誌』124-1、149-150 頁.

小宮真樹子 (コミヤ マキコ)

“Here Sir Gawayne Slew Sir Vwayne His Cousyn Germaine”: Field’s Alteration on Malory’s *Morte Darthur*. *Poetica* 83, pp. 107-19.

近藤佳代 (コンドウ カヨ)

「アングロ・サクソン期チャーターの偽作問題 —マツチェルニー修道院.

カーチュラリーの場合—」『史学』(三田史学会) 83-4、67-100 頁.

櫻井康人 (サクライ ヤスト)

「十字軍国家の社会構造に関する一考察—医者」『ヨーロッパ文化史研究』16、79-98 頁.

「フランク人に仕えた現地人たち—十字軍国家の構造に関する一考察」『東北学院大学論集 歴史と文化 (旧歴史学・地理学)』54、1-46 頁.

「家の内にいる敵—十字軍国家におけるフランク人の農村支配」服部良久編著『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史—紛争と秩序のタペストリー』(ミネルヴァ書房)、513-536 頁.

[書評]「甚野尚志・踊共二編著『中近世ヨーロッパの宗教と政治—キリスト教世界の統一性と多元性』」『史学雑誌』124(4)、108-113 頁.

佐々井真知 (ササイ マチ)

「刃物工ロバート・パイクメアが生きた 15 世紀ロンドン社会」『アリーナ』(中部大学) 18、362-366 頁.

佐々木徹 (ササキ トオル)

「聖トマス・アクィナス『神学大全』における五つの道」『茨城キリスト教大学紀要』(茨城キリスト教大学) 49、93-110 頁.

佐々木博光 (ササキ ヒロミツ)

[論説]「近世ブラウンシュヴァイク公国における財団・基金の歴史」『史林』98 巻、431-466 頁.

[書評]「中世から近世にいたるペスト理解と対策 宮崎揚弘著・ペストの歴史」『図書新聞』2015年10月10日.

佐藤彰一 (サトウ ショウイチ)

『ヨーロッパ、海域、そしてユーラシア 近代以前の世界』(深沢克己との共著、立教大学アジア地域研究所).

“Quelques remarques sur les ménages de veuves dans les documents comptables de Saint-Martin de Tours à l'époque mérovingienne”, *Splendor Reginae. Passions, Genre et Famille. Mélanges en l'honneur de Régine Le Jan*, Brepols Publishers, Turnhout, pp.229-236.

[翻訳]ベルンハルト・ビショッフ『西洋写本学』(瀬戸直彦との共訳、岩波書店).

[書評]「多田哲『ヨーロッパ中世の民衆教化と聖人崇敬—カロリング時代のオルレアンとリエージュ』」『西洋史学』256、73-75頁.

[新刊紹介]Aziz Al-Azmeh, *The Emergence of Islam in Late Antiquity. Allah and his People*. 『西洋中世研究』7、160-161頁.

Dominique Barthélemy / Jean-Marie Martin (éds) *Richesse et Croissance au Moyen Âge. Orient et Occident*, 『西洋中世研究』7、164-165頁.

Jean-Louis Bunaux, *Les Celtes. Histoire d'un mythe*, 『西洋中世研究』7、167-168頁.

Jean-Paul Demoule, *Mais où sont passés les Indo-Européens ? Le Mythe d'origine de l'Occident*, 『西洋中世研究』7、173-174頁.

Mischka Maier / Steffen Patzold (hg.), *Chlodwigs Welt. Organisation von Herrschaft um 500*, 『西洋中世研究』7、186-187頁.

Rob Meens, *Penance in Medieval Europe, 600-1200*, 『西洋中世研究』7、190-191頁.

佐藤公美 (サトウ ヒトミ)

[共編著]Marco Bellabarba, Hannes Obermair, Hitomi Sato (eds.), *Communities and Conflicts in the Alps from the Late Middle Ages to Early Modernity*, Società editrice il Mulino, Duncker & Humblot, Bologna-Berlin.

[論文]*Towns and Nobles in South Tyrol (Fourteenth-Fifteenth Centuries)*, in Marco Bellabarba, Hannes Obermair, Hitomi Sato (eds.), *Communities and Conflicts in the Alps from the Late Middle Ages to Early Modernity*, Società editrice il Mulino, Duncker & Humblot, Bologna-Berlin, pp.199-218.

[論文]「党派と〈複合領域〉—14世紀ノヴァラのゲルフィとギベッリーニ—」服部良久編『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史—紛争と秩序のタペストリー—』(ミネルヴァ書房)、198-221頁.

佐野大起 (サノ ダイキ)

[共訳]「第四ラテラノ公会議(1215年)決議文翻訳」(藤崎衛監修)『クリオ』29、87-130頁.

澤井繁男 (サワイ シゲオ)

『評伝 カンパネッラ』(人文書院).

斯波照雄 (シバ テルオ)

『西洋の都市と日本の都市 どこが違うのか—比較都市史入門—』(学文社).

「ハンザ都市の商業構造—北海・バルト海における塩とビール」 斯波照雄、玉木俊明編『北海・バルト海の商業世界』（悠書館）.

柴田隆功（シバタ タカノリ）

[共訳]「第四ラテラノ公会議（1215年）決議文翻訳」（藤崎衛監修）『クリオ』29、87-130頁.

渋谷聡（シブタニ アキラ）

「市長門閥から上訴市民を救う—18世紀帝国司法と複数諸地域間の連携」 服部良久編著『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史—紛争と秩序のタペストリー』（ミネルヴァ書房）、247-267頁.

「近世ドイツ帝国裁判所をめぐる研究動向—法による平和のヴァリエーション」 池田嘉郎・草野佳矢子編『国制史は躍動する—ヨーロッパとロシアの対話』（刀水書房）、61-79頁.

須網美由紀（スアミ ミユキ）

「ジョヴァンニ・ベッリーニとパラゴネ—16世紀初頭の作品をめぐる」『HERITEX』（名古屋大学文学研究科附属 人類文化遺産テキスト学研究センター 編）1、136-158頁.

[共訳]「ボストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の500年」（名古屋ボストン美術館・ひろしま美術館・佐川美術館・新潟県立近代美術館）.

図師宣忠（ズシ ノブタダ）

「中世キリスト教世界の形成と異端問題——「カタリ派」迫害への道筋と異端審問による刑罰と赦し——」『仏教文学』40、99-107頁.

「彷徨える異端者たちの足跡を辿る——中世南フランスにおける異端審問と「カタリ派」迫害——」 服部良久編『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史—紛争と秩序のタペストリー』（ミネルヴァ書房）、373-395頁.

鈴木明日見（スズキ アスミ）

「ランゴバルド諸法における財産相続——未成年者と家父長を中心として——」『駒沢史学』84、103-132頁.

瀬戸直彦（セト ナオヒコ）

「古仏語版『秘中の秘』とウスタシュ・デシヤンの養生術」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』60(2)、33-46頁.

[共訳] ベルンハルト・ビショッフ『西洋写本学』（岩波書店）.

瀬谷幸男（セヤ ユキオ）

[共訳]『シチリア派恋愛抒情詩選——中世イタリア詞華集』（論創社）.

苑田亜矢（ソノダ アヤ）

「2015年学界回顧：西洋法制史（英米）」『法律時報』87-13、332-333頁.

高名康文（タカナ ヤスフミ）

「『狐物語』B写本第5921-22行を巡る新旧校訂の比較」『ヨーロッパ文化研究』（成城大学大学院文学研究科ヨーロッパ文化専攻紀要）34、127-149頁.

高橋優 (タカハシ ユウ)

[共訳]「第四ラテラノ公会議 (1215 年) 決議文翻訳」(藤崎衛監修)『クリオ』29、87-130 頁.

高山博 (タカヤマ ヒロシ)

『中世シチリア王国の研究—異文化が交差する地中海世界』(東京大学出版会).

田口正樹 (タグチ マサキ)

「ヘルマン・オバンとヴァイマル期ドイツの歴史学」権左武志編『ドイツ連邦主義の崩壊と再建—ヴァイマル共和国から戦後ドイツへ』(岩波書店)、183-206 頁.

「中世後期ドイツの国王裁判権と公証人」『北大法学論集』65(5)、1-60 頁.

「帝国公証人条令 (1512 年) 邦訳」『北大法学論集』65(6)、248-266 頁.

[書評]「唐澤晃一『中世後期のセルビアとボスニアにおける君主と社会』」『法制史研究』64、416-421 頁.

[書評]「若曾根健治「森林犯罪告発人制度管見 (1) ~ (3・完)」」『法制史研究』64、486-489 頁.

[新刊紹介]Johannes LIEBRECHT, *Brunners Wissenschaft. Heinrich Brunner (1840-1915)*

im Spiegel seiner Rechtsgeschichte, (Studien zur europäischen Rechtsgeschichte Bd. 288), 2014、『西洋中世研究』7、185 頁.

[新刊紹介]Gabriela SIGNORI und Birgit STUDDT (Hg.), *Das Konstanzer Konzil als europäisches Ereignis. Begegnungen, Medien und Rituale*, (Vorträge und Forschungen Bd. 79), 2014、『西洋中世研究』7、196 頁.

田島篤史 (タジマ アツシ)

『魔女への鉄槌』にみる神義論—「神の許可」をめぐる諸問題—『宗教研究』(日本宗教学会)88(別冊)、186-187 頁.

[共訳]「イェルク・ヴィクラム『少年の鑑』(1554 年) (2)」『独逸文学』(関西大学独逸文学会)59、231-241 頁.

[書評]「W・ベーリンガー著、長谷川直子訳『魔女と魔女狩り』」『西洋史学』256、75-77 頁.

田中圭子 (タナカ ケイコ)

「コンラート・ツェルティスの『ラプソーディア』——16 世紀初頭のハプスブルク宮廷における人文主義——」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』52、183-194 頁.

田中俊之 (タナカ トシユキ)

The District Court and the Nobility of the Basel-Land Region (Fifteenth Century). Marco Bellabarba / Hannes Obermair / Hitomi Sato (eds.) *Communities and Conflicts in the Alps from the Late Middle Ages to Early Modernity*, Bologna / Berlin, pp.237-249.

「都市民・農民の「名誉」文化—アルプスとその周辺地域」踊共二編『アルプス文化史—越境・交流・生成』(昭和堂)96-100 頁.

「裁く農民、抗う領主—1460 年代バーゼル農村部の農民裁判より」服部良久編著『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史—紛争と秩序のタペストリー—』(ミネルヴァ書房)222-246 頁.

Das Landgericht und die Adligen der Region im Baselland (15. Jahrhundert)『金沢大学歴史言語文化学系論集 [史学・考古学篇]』7、53-68 頁.

田辺めぐみ（タナベ メグミ）

《La fonction signifiante de l'ornement marginal dans les livres d'Heures bretons du XVe siècle》
Hélène Bouget et Magali Coumert (dir.), *Histoires des Bretagnes 5. En marge*, Centre des
Recherche Bretonne et Celtique (Université de Bretagne Occidentale-Brest), pp. 313-328.

《Les sources d'ornement végétal dans les Heures de Marguerite d'Orléans (Paris, BNF MS. LAT.
1156B)》, Isabelle Trivisani-Moreau, Aude-Nuscia Taïbi et Cristiana Oghina-Pavie (dir.), *Traces du
végétal*, Presses Universitaires de Rennes, Nouvelle Recherches sur l'Imaginaire, pp. 243-252.

「「？」と「！」の果てしなき往還のなかで—「フランスの社会と文化」を担当して—」『こだはら』（帝
塚山学院大学）37、9-18 頁.

「異文化教育における彩飾写本の可能性—研究と教育の《共生》をもとめて—」『鹿島美術研究』（鹿島
美術財団）年報 32(別冊)、598-602 頁.

「メネストレル：中世学の人的ネットワークとポータルサイト」（クリスティーヌ・デュクルシュー＝
ヴェルボヴァンとの共著）『西洋中世研究』（知泉書館）7、211-213 頁.

津田拓郎（ツダ タクロウ）

War die Zeit Karls des Großen 'die eigentliche Ära der Kapitularien'? *Frühmittelalterliche Studien*
49.

「カロリング期の『カピトゥラリア』に関する近年の研究動向—MGH 新版刊行担当者らによる近年の
仕事を中心に—」『カロリング期社会変革の基礎研究。教会エリート、大所領：研究成果報告書』（研
究代表者：丹下栄）、5-33 頁.

寺田龍男（テラダ タツオ）

『ニーベルンゲンの歌』はゲルマン的か」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』21、21-33 頁.

中川久嗣（ナカガワ ヒサシ）

「南仏ラングドック・ルシヨンにおける中世ロマネスク期の修道院と教会」『文明研究』（東海大学文明
学会）33、55-70 頁.

「南フランス・ロゼール県北部の中世ロマネスク聖堂（1）」『東海大学紀要 文学部』103、29-52 頁.

仲田公輔（ナカダ コウスケ）

[読書案内]「ジュディス・ヘリン著（井上浩一監訳）『ビザンツ：驚くべき中世帝国』 歴史学研究会編
『歴史学と、出会う—41 人の読書経験から』（青木書店）114-119 頁.

[新刊紹介]John Haldon, *A Critical Commentary on the Taktika of Leo VI*. 『西洋中世研究』7、178-179
頁.

中西恭子（ナカニシ キョウコ）

「ニカイアからカルケドンへ—古代末期の東方におけるキリスト論論争と教会政治史」『東洋学術研究』
（創価大学東洋哲学研究所）54(2)、111-146 頁.

名城邦夫（ナシロ クニオ）

「主権国民国家と計算貨幣にヨーロッパ貨幣史—南欧型貨幣システムから北西ヨーロッパ型貨幣シ
ステムへの発展—」『名古屋学院大学論集（社会科学編）』52(2)、1-88.

奈良澤由美 (ナラサワ ユミ)

Les autels chrétiens du Sud de la Gaule : 5^e-12^e siècles, (Bibliothèque de l'Antiquité tardive 27), Brepols Publisher, Turnhout, 2015.

「トロス司教座聖堂出土の装飾石材について——2013 年度および 2014 年度の発掘から」『史苑』18、377-386 頁.

西村善矢 (ニシムラ ヨシヤ)

Justice or Rent? Notes on the *Iustitia* Clause in the Ninth-century Leases of the Monastery of Monte Amiata, in *Entre text et histoire. Études d'histoire médiévale offertes au professeur Shoichi Sato*, préparé par O. Kano et J.-L. Lemaitre, Paris, pp. 251-264.

[書評]「池上俊一『公共善の彼方に。後期中世シエナの社会』」『地中海学研究』38、119-124 頁.

服部良久 (ハットリ ヨシヒサ)

『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史——紛争と秩序のタペストリ——』(編著、ミネルヴァ書房).

Community, Communication, and Political Integration in the Late Medieval Alpine Regions. Survey from a Comparative Viewpoint. *Communities and Conflicts in the Alps from the Late Middle Ages to Early Modernity*, Marco Bellabarba / Hannes Obermair / Hitomi Sato (eds.), Mulino / Duncker & Humblot, Bologna / Berlin, pp.13-38.

花房秀一 (ハナフサ シュウイチ)

「14 世紀前半ノルマンディ地方三部会における王権と地域住民」『エクフラシス—ヨーロッパ文化研究—』5、62-76 頁.

「フランス近代国家生成と”長い 13 世紀”—研究動向—」『青山史学』33、49-57 頁.

[新刊紹介]Véronique GAZEAU et Jean-Philippe GENET (eds.), *La France et les îles Britanniques: un couple impossible ?*, 『西洋中世研究』7、174-175 頁.

濱野敦史 (ハマノ アツシ)

「15 世紀ピサにおける奴隷所有」『地中海学研究』38、67-90 頁.

平野智洋 (ヒラノ トモヒロ)

「後期ビザンツ有力者(15 世紀)の系譜学とプロソポグラフィーに関する一考察——皇帝文書確認官アレクシオス・パレオロゴス・ツァンブラコン一族の事例——」『オリエント』57(2)、29-40 頁.

[史料翻訳・註解]「ゲオルギオス・スフランツィス『回顧録(小年代記)』翻訳、註釈と解説(4-2): 第 41 章より第 48 章まで(1460-1477 年, 完結)」『東海史学』49、61-78 頁.

藤井真生 (フジイ マサオ)

「外国人に官職を与えるな——中世後期チェコにおける貴族共同体のアイデンティティ——」服部良久編『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史——戦争と秩序のタペストリ——』(ミネルヴァ書房)、463-487 頁.

[書評]「唐澤晃一『中世後期セルビアとボスニアにおける君主と社会』」『史学雑誌』124(11)、97-105 頁.

[研究動向]「回顧と展望——ヨーロッパ(中世、中東欧・北欧)」『史学雑誌』124(5)、317-321 頁.

[史料紹介]「史料紹介：ドイツ人についての良き教えの書」『静岡大学人文論集』65(2)、79-102頁。

[新刊紹介]František ŠMAHEL, *The Parisian Summit, 1377-78: Emperor Charles IV and King Charles V of France*, Praha, Karolinum, 2014. 『西洋中世研究』7、196-197頁。

藤崎衛 (フジサキ マモル)

『教皇庁と美術』(加藤磨珠枝編、共著、「ローマ司教からローマ教皇へ、その変遷」を担当、竹林舎)
「中世カトリック世界の重層的アイデンティティ—12・13世紀の教会会議言説の分析—」『歴史学研究』937、171-180頁。

[監訳]「第四ラテラノ公会議(1215年)決議文翻訳」『クリオ』29、87-130頁。

[翻訳] マックス・ケルナー、クラウス・ヘルバース『女教皇ヨハンナ 伝説の伝記<バイオグラフィ>』(エリック・シッケタンツとの共訳、三元社)。

船越一幸 (フナコシ カズユキ)

『ロマネスクの社会を散歩する』(共同文化社)。

舟橋倫子 (フナハシ ミチコ)

[共訳]フランソワ=ジョゼフ・ルッジウ「フランスにおける都市民意識、都市体験、アイデンティティ—アンシャン・レジームから革命まで—」渡辺浩一/ヴァネッサ・ハーディング編『自己語りと記憶の比較都市史』(勉誠出版)、60-86頁。

古川萌 (フルカワ モエ)

Looking out of the Vasari Corridor: Giorgio Vasari, the Arno, and the Gaze of the Ruler. *Occhi e sguardi nella filosofia e nelle arti / Eyes and Gazes in Philosophy and Arts*. eds. by Giuseppe Patella and Atsushi Okada, Rome: UniversItalia, pp.245-276.

「芸術庇護としての吊い——フィレンツェ公国におけるジョルジョ・ヴァザーリとエピタフ、墓碑、追悼——」『西洋中世研究』7、134-157頁。

堀越宏一 (ホリコシ コウイチ)

『図説・中世ヨーロッパ庶民の暮らし』(河原温との共著、河出書房新社)。

Les archives de la famille du Febvre de Laubrière à la bibliothèque de l'Université de Hitotsubashi. 一橋大学図書館ホームページにおいて公開。(http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/laubrieres/essay.html)

[書評]「コレット・ボージュ著『幻想のジャンヌ・ダルク——中世の想像力と社会——』阿河雄二郎・北原ルミ・嶋中博章・滝澤聡子・頼順子訳、昭和堂」『西洋史学』255、57-59頁。

松根伸治 (マツネ シンジ)

「枢要徳はなぜ四つか—トマス・アクィナスによる理論化」『南山神学』38、109-143頁。

松本涼 (マツモト サヤカ)

「中世アイスランドの商業——羊毛布と女性」斯波照雄・玉木俊明編『北海・バルト海の商業世界』(悠書館)、149-182頁。

「ロプト・ヘルガソンの「反逆」——13世紀後半のアイスランド社会とノルウェー王権」服部良久編著『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史——紛争と秩序のタペストリー』(ミネルヴァ書房)、176-197頁。

松本典昭 (マツモト ノリアキ)

『メディチ宮廷のプロパガンダ美術——パラッツォ・ヴェッキオを読み解く』(ミネルヴァ書房).

三浦麻美 (ミウラ アサミ)

「ヘルフタ修道院から見る13世紀後半のドイツ—女子修道院の歴史を考えるために—」『神話・象徴・儀礼II』(篠田知和基編、楽瑯書院)、151-170頁.

向井伸哉 (ムカイ シンヤ)

[小文] 「フランス学界における空間分析について：中世史家の視角から」『建築雑誌』1671、27頁.

[参加記] 日仏国際コロク「中近世フランス・ラングドックの領域史」に参加して『日仏歴史学会会報』30、55-57頁.

村田光司 (ムラタ コウジ)

The Mongol's Approach to Anatolia and the Last Campaign of Emperor John III Vatatzes. *Greek, Roman, and Byzantine Studies* 55-2, pp. 470-488.

Quelques observations sur la relation et la signification des chrysobulles en faveur du monastère de Brontochion à Mystras. *Entre texte et histoire. Études d'histoire médiévale offertes au professeur Shoichi Sato*, volume préparé par O. Kano et J.-L. Lemaitre, Paris, De Boccard, pp. 209-226.

「トロソ司教座聖堂発掘報告(2014) —出土貨幣及び封緘について」『史苑』74-2、346-355頁.

[共訳] 「プロコピオス『秘史』——翻訳と註(3)」『早稲田大学高等研究所紀要』7、41-70頁.

[新刊紹介] Anthony Kaldellis, *Byzantine Readings of Ancient Historians: Texts in Translation, with Introductions and Notes*, Routledge, 2015 『西洋中世研究』7、182頁.

榎山陽子 (モミヤマ ヨウコ)

「16-18世紀のイギリス教会音楽の歌詞付け——英語の音節数に着目して」『ミクスト・ミュージック』(愛知県立芸術大学音楽学部音楽学コース紀要) 10、82-103頁.

森本光 (モリモト ヒカル)

[共訳] 「第四ラテラノ公会議(1215年)決議文翻訳」(藤崎衛監修)『クリオ』29、87-130頁.

[共訳] 「女教皇伝説・史料編」(藤崎衛との共訳) マックス・ケルナー/クラウス・ヘルバース [著]、藤崎衛/エリック・シッケタンツ [訳] 『女教皇ヨハンナ』(三元社) 33-47頁.

山内志朗 (ヤマウチ シロウ)

「西洋中世における神学の方法と体系化」村上勝三編『越境する哲学』(春風社)、349-382頁.

山田雅彦 (ヤマダ マサヒコ)

「(研究ノート) カントヴィック研究の過去と現在(上)」『史窓』(京都女子大学史学会) 72、39-61頁.

「フランドルとハンザ、そしてフランスとハンザ—ブルッへの浮沈をめぐる一つの物語」斯波照雄・玉木俊明編『北海・バルト海の商業』(悠書館)、217-256頁.

「なぜバポームの通過税を負わねばならないのか—13・14世紀北フランスの都市と王権の係争」服部良久編『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史—紛争と秩序のタペストリー』(ミネルヴァ書房)、344-367頁.

山辺規子 (ヤマベ ノリコ)

「都市景観が映す支配の歴史—ボローニャの場合」服部良久編著『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史—紛争と秩序のタペストリー』(ミネルヴァ書房)、297-320頁.

「中世ヨーロッパの『健康規則』—公衆衛生と救済」『歴史学研究』932、14-23頁.

「中世ヨーロッパの健康書『タクイヌム・サニターティス』の項目の比較」『奈良女子大学文学部研究教育年報』11、145-156頁.

[書評]「藤崎衛『中世教皇庁の成立と展開』」『史学雑誌』124-1、76-84頁.

横山安由美 (ヨコヤマ アユミ)

[翻訳]ロベール・ド・ボロン『西洋中世奇譚集成 魔術師マーリン』(講談社).

[書評]「ウォルター・マップ『宮廷人の閑話』瀬谷幸男訳」『週間読書人』2015年2月6日号、5頁.

吉川文 (ヨシカワ アヤ)

「東西の十二平均律」(共著)『東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系』67、29-53頁.

[新刊紹介] Yolanda Plumley, *The Art of Grafted Songs: Citation and Allusion in the Age of Machaut*. 『西洋中世研究』7、192頁.

和栗珠里 (ワグリ ジュリ)

「仮面喜劇の源流を求めて—狂言とコンメディア・デッラルテの根底にあるもの—」(小笠原匡との共著)『桃山学院大学総合研究所紀要』40(3)、177-195頁.

[エッセイ]「アルレッキーノと摩多羅神」『地中海学会月報』381、10頁.